

講義名	グローバル競争論		
担当教員	李 東浩		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要
<p>本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する。本授業の実施方法の詳細については、李東浩（2017）「学生の心を掴む生きた教育― 教学双方の意識転換によるアクティブラーニング」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp.75-104（30頁）を参照。ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細については、李東浩（2018）「学部ゼミ運営に関する一提案―「楽しく頑張る」から「ひとつくり」」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp.1-19（19頁）を参照。</p> <p>真面目な学生、志気に勉強の意欲がある学生は強く勧める 毎回、面白いビデオがある 毎回、素晴らしいレスポンス課題提出がある 先生だけがの字びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な字びの仕組み</p> <p>米中貿易戦は単なる両国間の経済貿易領域の紛争ではなく、その本質は米中争覇にまで発展しつつあり、全世界へも広範な影響を与えている。この課題をしっかりと理解するために、グローバル競争論の本授業は単なる経営だけでなく、経済・政治・地政・歴史的視点をも加えて複眼的に切り開き分かりやすく解説する。</p> <p>グローバル化になりつつある中、歴史的に世界のリーダー格になった・なりつつある国々及び地域的な巨大な影響力を有する国々の過去・現在・将来を優しく紹介する。受講者の世界観、歴史観、国際関係観の形成に一期になると期待される。</p> <p>旧来と現存の世界大国であるポルトガル、スペイン、オランダ、イギリス、フランス、ドイツ、日本、ロシア、アメリカ、中国の歴史的な成長・躍進・衰退のプロセスと現況を触れながら、加えて韓国、ベトナム、インドなどアジアの国々も紹介する。</p> <p>各国の国家・産業・企業といった3レベルから分析する。前半はグローバル競争、経営、地政学等に関する概説論、後半は代表的な国々及びその産業・企業に関する実践論となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル競争専門分野の基礎的な知識とともに、事例研究を通じた主体的な考え方を学習により、共通DP（卒業認定・学位授与方針）に貢献し、実践的な企画分析能力にもつながる。 2. 身につけた知識・能力・資格等で常に自ら考え抜き、理解し切れることで企業経営の仕組みと組織行動を理解するのに役立ち、DPに直接つながる。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> （1）知識・能力・資格を身につける。 本授業を通じて、グローバル化になりつつある中での、歴史的に世界のリーダー格になった・なりつつある国々及び地域的な巨大な影響力を有する国々の過去・現在・将来を地政学・経営学・経済学・社会学といった多面的な視角から説明する。受講者の正しい世界観、歴史観、国際関係観を形成できるようにする。 （2）思考力・判断力・表現力を向上する。 論理的に基本的な概念・理論と方法を学ぶだけでなく、毎回の授業に実際の企業の事例も採り上げ、ビデオも活用しながら、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただ単に授業内容とビデオを聞く・見るだけでなく、考えて、判断、討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで毎回、知識と能力が身につけることを実感できるようにする。 （3）主体的な学習態度を養成する。 履修生は、能動的で主体的に知識を吸収・理解・習得・運用する能力を養成できるようにする。 <p>日常や今後の就職先で企業のグローバル競争に触れたり、グローバル競争に関する新聞記事を読んだりする際には、グローバル競争分析的視角から課題発見と課題解決を行い、世界的な大規模視点から分析能力を養成できるようにする。</p>
提出課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自事前に、レスポンス、ポータル、アプリなどの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。 2. 毎回、レスポンス課題があるので、指示に従い、〆切期間中に真面目に提出をしてください。 3. 毎回の提出課題に基づき、出席と単位・成績を取ることで、毎回出席・勉強・提出を心がけてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、毎回課題へのフィードバックや振り返りを行う。優れた提出内容を、マーカーや色付けで強調して表彰します。モチベーションアップにつながるだろう。 2. 毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示して、双方向・多方向的な考える学習型授業の醍醐味を理解して、お互いに勉強しましょう。 3. 毎回、自分の学習成果のチェックだけでなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認でき、POCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できる。
評価の基準
<ol style="list-style-type: none"> 1. 平日出席と提出課題及び、期末試験、の質・量で総合的に評価する。 2. の平常出席と課題が55%ウェイト、の期末試験が45%ウェイトに占める。期末試験不提出の場合、直接不合格になる。 3. の期末試験はオンデマンド型のレスポンスで提出になる。期末試験の前身である、内容・要領・期間・時間等において、大学の期末試験期間中（第16週）にポータルに提示する。ネット等の不具合対策を意図したうえ、余裕をもって、〆切まで期間中に提出してください。念のため、期末試験そのものの連絡通知は、第11週から期末試験終わりまでポータルにも提示する。 4. この授業は、毎回レスポンスで出席・成績評価・採点のシステムで進める。そのため、一回出席であっても、当該回の成績がなくなる。よって、毎回、授業出席・課題提出、加えて期末試験課題提出を、きちんと自己管理してください。

履修にあたっての注意・助言他
<p>先輩たちからの以下の意見を是非参考してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「五感に触れる画期的な授業」： 充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！ 2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見を言う場を与えて、それを共有し、すくりに実行する。優良企業だと思います。モチベーションがとても高く維持できています」 3. 「いま4回生だもって早くこの授業に出会いたかった」： 知識のものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！ 4. 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」

教科書					
.使用しない.					

プリント資料及び参考文献
<ol style="list-style-type: none"> 1. プリント等配布資料は必ず各自事前に RYUKA Portal からダウンロードと印刷して教室まで持って来てください。早めにダウンロード・保存・印刷を済ませてください。 2. 授業はPPT・プリント資料、映像、討論で進むプリントには穴埋めが相当設けられ、PPTと確認しながら記入してください。 3. 参考文献： Paul Kennedy ポール・ケネディ（1989=1993）『大国の興亡』 草思社。 Graham Allison グレーム・アリソン（2017=2017）『米中戦争前夜― 新旧大国を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ』 タイヤモント社。 Samuel Huntington サミュエル・ハンチントン（1996=1996）『文明の衝突』 集英社。 原隆一郎（2017）『イノベーションとは何か』 Kindle版。

授業計画
<p>授業内容計画概要。注：（ ）内はビデオ内容。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：進め方・出席・単位等（55米中攻防の最新線） 2 グローバル競争概要（ノーベル賞発祥の地「北歐スウェーデン・イケア」） 3 歴史の示唆：トウキティデスの巻（米中貿易戦争の真実、その時日本は？） 4 国の競争優位（一番・適応シフト太平洋― 日系企業のインドへの進出） 5 産業の競争優位（アフリカのタンザニア：日系中古車と清潔水） 6 企業の競争優位（シンガポール：園が丸ごと実験場） 7 イノベーション競争（人工知能AIの躍進：米日での運用拡大） 8 ベトナムとアセアン（ベトナムへの日系企業進出 コクヨ文具） 9 韓国、台湾（日韓関係も政治経済？） 10 ポルトガルとスペイン（ユニクロのスペインへの進出） 11 オランダとイギリス（アサヒビールの子会社イギリスロンドンへの進出） 12 フランスとドイツ（欧州の競日国：フィンランド） 13 日本とロシア（ロシアへの進出と現地の環境事情） 14 アメリカと中国（世界のAIとロボット：海軍揚陸の進化） 15 まとめ（アメリカVS中国：未来の覇権争い）

授業形態（アクティブ・ラーニング）																
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>イ：PBL（課題解決型学習）</td> <td></td> <td>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>ウ：ディスカッション、ディベート</td> <td><input type="radio"/></td> <td>エ：グループワーク</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オ：プレゼンテーション</td> <td></td> <td>カ：実習、フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td></td> <td>キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		イ：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	<input type="radio"/>	ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク		オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク		キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
	イ：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）													
<input type="radio"/>	ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク													
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク													
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）															
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間																
<p>毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。 毎回、「能力を産種する」こと、を実感できる。</p> <p>だから、他のたたくさんの授業のように、期末だけで猛勉強による一発勝負することはない（人生も同じような状況だろう！つまり人生も基本的に一発勝負ではなく、長年平日の積み重ねる努力こそは大事！）。</p> <p>恐らくこの授業は、あなたの頭に永遠に残る大学授業の一つである（授業が終わっても長く長くまで鮮明に覚えるかもしれない）。</p> <p>興味と余力があれば、授業の指定する参考文献をも読んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回事前に、ポータルの連絡通知にプリント資料とともに次回の予習や復習の課題を指示する。 2. 毎回の予習時間は、授業時間（90分=2時間相当）の2時間ぐらいにしてください。 																

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や組織の国際運営の仕組みを自ら主体的な立場から的確に理解できる。共通DP及び業界動向・問題探索・課題提案能力のDPに貢献できる。 2. 身につけた知識・能力・資格等を生かして、組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかける。自ら考えと理解のDPに貢献できる。 3. グローバル競争の戦略立案と実行しながら、現地のニーズにも応応しつつ、柔軟で俊敏に大局的な視野と能力を持つことができる。グローバル分析や改善・解決のDPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>講義を聞くだけではなく、考えてグループワークを喋ったり、発言をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対面型授業の場合、質問やクイズなどをします場合もあるので、積極的に考えて、発言をしてみてください。 2. オンデマンド型授業の場合、他人の発言を見て、自分も発言できるように授業に臨んでください。 3. 先進的なレスポンスなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がります。
実務経験の有無及び活用
なし。

備考
<p>対面講義を基本とする。しかし新型コロナウイルス感染症の状況によりオンデマンド講義となった場合にはシラバスが修正される可能性がある。</p> <p>学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみてください。 通り甲斐のある授業（そうか！これこそは大学らしい授業だ！）。 静かで受講できる環境（私語ほとんどない！）。</p>